

# 西南学院小学校 学校長メッセージ

## 「学校通信 Wings 2020年2月号」

「これらすべてに加えて、愛を身につけなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。」  
コロサイの信徒への手紙3章14節

2月に入ります。大寒から立春までが1年で最も寒い時期だそうですが、今年はその実感がないままに春を迎えることになりそうです。1月中旬に金沢市でキリスト教学校教育同盟の研修会が開かれました。「いつもなら、今頃は校舎裏の坂でスキーをするんですよ。」と会場校の先生がおっしゃっていましたが積雪はまったくなく、寒さも福岡と変わりませんでした。

雪のために交通機関が麻痺したり、雪下ろしや除雪作業で大変な苦勞をしたりすることがないのはいいことですが、スキー場は困っているでしょう。また、山に積もった雪は天然のダムとなり、その雪解け水は大切な農業用水や地下水となって私たちの生活を支えています。これだけ積雪が少ないと、春以降水不足になるのではないかと心配になってきます。自然界のバランスの大切さを改めて感じずにはいられません。その自然界のバランスが地球規模で崩れてきています。環境問題は、人類共通の避けては通れない問題ですが、それに限らずこれからは容易には答えを出すことのできない問題がますます増えていくことと思います。

新しい学習指導要領でも教育活動の目標に「学びに向かう力」という言葉が使われていますが、未来を担う子どもたちには、問題意識を持ち主体的に課題と向き合おうとする姿勢を育てることが更に大切になってくると思います。1月に行われたブレインオリンピックは開校以来続く行事で、思考力を鍛え、考えることの楽しさを味わわせるとともに、協力して取り組むことのよさを実感させることをねらいとしています。(5,6年生はこれから行います)

まずは予選を行い担任が判定者となって代表を決めます。学年や年度によっては、AB混合のチームを作ることもあります。決勝は、学年合同で行い、代表チームだけではなく全チームが決勝の問題に取り組みます。決められた時間が来たらそこでストップ。まずは代表の2チームが答えを発表します。もしどちらのチームも正解にたどり着けなかった場合には、他のチームが「敗者復活」をすることもあります。決勝の判定は、校長と教頭が行いますが、正解かどうかだけではなく、どれだけ分かりやすく説明できたかがポイントです。答えは分かってもなぜそうなるのかが説明できなくては理解できたとは言えません。分かりやすく説明できるということは、それだけ深く理解できているということです。

今年度の1年生の決勝問題は次のようなものでした。

1～9の すう字が かいてある カードが 1まいずつあります。これを たろうくん、じろうくん、はなこさんの3人に、3まいずつくばったら、3人ともカードのすう字をあわせたかずが おなじになりました。たろうくんは「1のカード」、じろうくんは「2と4のカード」をもっています。では、はなこさんは、どんなすう字のカードをもっていますか。

代表チームは、正解を出すことができ説明の文章も書けていました。もちろん1年生ですから、理路整然というわけにはいきませんが、考え方の道筋は伝わってきました。学年が上がるに連れて、問題の難易度も上がりますが、子どもたちの説明もレベルアップしていきます。1月実施の最高学年は4年生でしたが、各チーム違うアプローチで答えを出し、説明も簡にして明だったのには感心しました。5,6年生はいったいどんな解答を見せてくれるのか今から楽しみです。2月には「なわとび3分間チャレンジ大会」が行われ

ます。これは開校当時最上級生だったある子どもが「ブレインオリンピックはあるけど、スポーツのオリンピックはやらないんですか」と言ったことがきっかけで始まりました。その際全学年が取り組める運動としてなわとびが選ばれました。毎年、3分間跳び続けることを目標に練習に取り組みます。二つの「オリンピック」を通して、子どもたちの「頭」と「体」、そして意欲や意志といった「心」も育つことを願っています。

文責 宮崎 隆一